

「考え、議論する道徳」の扉を、いま拓く～文科省・県教委道徳発表会～

11月16日（金）、文部科学省・群馬県教育委員会から委託されて本校が平成29・30年度の2年間にわたって取り組んだ道徳教育の研究発表会を行いました。県内各地から来校した参加者はおよそ130名で、本校職員をあわせて150名を超える大きな大会となりました。近隣市町村のみならず、遠くは南牧村、中之条町、みなかみ町、片品村からの来校者もあり、来校者の数からも、往復の距離からも、各学校における関心の高さをうかがうことができました。授業提供の対象となった1年1・2組、2年1・3組、3年2組のみなさんは、大勢の参観者に見つめられながら授業を受ける大変な状況にもかかわらず、これまでに蓄えてきた力を十分に発揮してくれました。よく頑張ってくれました。今回出番のなかった他のクラスのみなさんの頑張りも含め、改めてお礼を申し上げます。保護者の皆様、地域の皆様にもこの2年間、特別な御支援を賜りました。お陰様で素晴らしい発表会とすることができました。ここにお礼を申し上げ、発表会のあらましを御報告申し上げます次第です。

出番を待つ会場



思いを込めた授業



▲ 1年1組



▲ 1年2組



▲ 2年1組



▲ 2年3組



▲ 3年2組

参加者と交わし合った道徳への思い－全体会



▲主催者挨拶
(柴崎教育長様)



▲研究発表



▲研究発表担当
(佐々木研修主任)



指導講評
(県教委上原指導主事様)



▲記念講演 (文部科学省教科調査官 澤田浩一様)



余録



▲来校者臨時駐車場
(旧昭和小学校庭)



▲あふれる参観者
(1年1組)



▲全体会場俯瞰 (ふかん)
(体育館2階から)

参観者からの感想です

- ・道徳教育充実のためには、学校全体で本気でやるのが大切、必要であると感じた。
- ・一人一人を大切に、個性を生かした授業でした。
- ・明日から道徳頑張ろう！！と思えた1日になりました。
- ・先生方が大変苦労しながらも、生徒たちのために一生懸命に研修を重ねてきたことが伝わりました。
- ・緊張しながらも道徳に真剣に取り組もうとする生徒の姿が特に印象に残りました。
- ・学校での取組、地域への発信など大変参考になりました。

発表会の3日後、市内の小学校の校長先生からいただいたメッセージです

先週の研究発表会、お疲れ様でした。参加させていただき、この2年間、密度の濃い研究への取組がなされてきたことをひしひしと感じさせていただきました。授業に取り組む子供たちの真剣な姿、先生たちの笑顔、誰もが自信を持って胸を張っていることにも感動しました。中学校の道徳に対する私のイメージをすっかり変えていただきました。